

口大統領 国後島訪問

ロシアのメドベージェフ大統領が1日、強行した北方四島の国後島訪問は日ロ両国の領土交渉の歴史を過去へと巻き戻し、「四島返

極東外交 中国重視にシフト

■変節

「大統領は日ロ共同宣言の原則から一歩も譲歩するつもりがないことを示した」

ロシア外務省外交アカデミーのエフゲニー・バジャンフ副所長は今回の北方領土訪問の狙いをこう解説する。メドベージェフ大統領は二〇〇九年二月の首脳会談で「独創的アプローチ」による解決で合意するなど柔軟路線

選」と「二島返還」という日ロ両国の交わるここのない主張の相違をあらためて際立たせた。訪問の背景には、極東外交で日本懸境に傾くロシアの姿勢や日本の対ロ外交の脆弱さが垣間見え、交渉の長期停滞は不可避だ。(モスクワ・酒井和人、政治部・竹内洋一)

線が期待されていた。が、新たなアプローチは具体化せず、歴代首脳が見送ってきた北方領土訪問に踏み切った。政権内からは訪問原因の一つとみられる戒感依然根強い。半



1日、ロシア首脳として初めて国後島を訪れ、ソ連時代の砲台前を歩くメドベージェフ大統領＝AFP

平和条約締結後に歯舞、色丹2島を引き渡すとした1956年の日ソ共同宣言を金科玉条としてきた。2島返還での最終決着がロシアの原則の立場で、4島返還を求める日本感は変化してきた。

面、成長市場参入への勢で懸え上がったのが期待や対米けん制での政治、経済のどちらだ連携など中国との友好関係がもたらすメリツトも少なくない。

裏腹なのが「対日関係重視」の姿勢だ。情報技術(IT)分野への投資や極東エネルギー開発での協力など日本への期待は大きい。

が、ロシアでは「政治対立が、そのまま経済的マイナスとはならない」(外交筋)との見方がある。それが、政治的に強硬姿勢に出ても日本が経済協力を放棄する(とはない、とロシアの強気の読みにつながっている。

■反発

象徴的なのが沖繩県・尖閣諸島(中国名:釣魚島)沖での中国漁船衝突事件。中国の攻

「尖閣での対応のうらみを見透かされている」(自民党の石破茂

領土交渉 停滞は必至



日本、尾を引く尖閣対応

口大統領北方領土訪問

島民生活向上に期待

「中央並みに改善」約束

「モスクワ」酒井和人「ロシアのメドベージェフ大統領が一日、ロシア最高首脳として初めて、北方領土の国後島を訪れたことで、同島では生活水準の向上に大きく期待が膨らんでいる。大統領は将来の発展に向けた開発促進を表明したが、それは日本にとって、ロシアによる実効支配の既成事実化が加速することを意味する。



タス通信などによる島中心部に住むメドベージェフ大統領は視察中、旧ソ連崩壊後の一九九〇年代、貧しさから大勢の住民が去ったとの島民の声に対し「(生活水準を)ロシアの中央並みに改善する」と約束。島のインフラ整備を進め、島外からの流入で人口増を図っていく考えを強調した。

島中心部に住むメドベージェフ大統領は視察中、旧ソ連崩壊後の一九九〇年代、貧しさから大勢の住民が去ったとの島民の声に対し「(生活水準を)ロシアの中央並みに改善する」と約束。島のインフラ整備を進め、島外からの流入で人口増を図っていく考えを強調した。

1日、北方領土・国後島中心部の吉舎市(ユシノクリリスク)の食料雑貨店で買い物をするロシアのメドベージェフ大統領(左)とAP

く考えを強調した。島中心部に住むメドベージェフ大統領は視察中、旧ソ連崩壊後の一九九〇年代、貧しさから大勢の住民が去ったとの島民の声に対し「(生活水準を)ロシアの中央並みに改善する」と約束。島のインフラ整備を進め、島外からの流入で人口増を図っていく考えを強調した。

「学校もお願ひ」など声が上っていた。ロシア政府は二〇〇六年、北方四島に年間約二十億(約五十二億円)を投資する「クリル(千島)社会経済発展計画」(〇七―五年)を策定。経済不況の中、今年から四年の予算削減されたが、大統領の訪問を契機に再び増額される可能性もありそう。

ロシアにとって四島の定住民の増加や、インフラ整備は実効支配の強化につながり、日本の領土返還要求に応じる用意がないことを意味する。トラック運転手の男性(左)は「もっと暮らしやすくしてほしい。ここは永遠におれたちの島だから」と話した。

ロシアのメドベージェフ大統領が国後島を訪問した。北方四島はロシアに占拠され、日本が返還を求める固有の領土だ。大統領の訪問は両国関係の発展を損なう暴挙であり、嚴重に抗議したい。

北方領土訪問

ロシア最高首脳は北方領土訪問は旧ソ連時代を含めて初めてだ。日本政府は再三、中止を求めてきたが、受け入れられなかった。北方四島は歴史上、一度も外国の領土となつたことがない。

旧ソ連は第二次

世界大戦末期、有効だった日ソ中立

条約に違反して対日宣戦を布告。

一九四五年八月十五日の終戦後も、侵攻を続けて北方四島を占拠し、そのまま実効支配している。

日本政府は四島返還を求め、日露両政府は四島の帰属問題を解決して平和条約を締結することを目指しているが、ロシア側は返還に応じる姿勢を見せなはかりか、最近では四島支配を正当化しよう

という動きを強めている。

今年七月には択捉島で大規模軍事演習を実施したほか、日本が降伏文書に調印した九月二日を「大戦終結記念日」に制定して祝賀行事を行った。これは北方四島侵攻を戦争中の行為と位置付け、占拠を正当化するためだ。今回の大統領

「日ロ」発展損なう暴挙

体の経済発展につながる。ロシア側は理解すべきた。

受け止めるべきだ。

今年十三、十四両日には、横浜でアジア太平洋経済協力会議(APEC)首脳会議が開かれ、菅直人首相は議長を務める。二二年のAPEC開催地はロシア沿海地方のウラジオストクだ。

横浜からウラジオへと続く経済協力発展の流れに、ロシアはなぜ水を差すのか。良好な日ロ関係はアジア・太平洋地域の繁栄の礎であり、それが沿海地方やロシア全体の経済発展につながる。ロシア側は理解すべきた。

領土も、その延長線上にある」とは否定できない。メドベージェフ大統領は欧米寄りのリベラル派とみられており、訪問には二〇二二年の大統領選に向けて強硬姿勢を演出し、権力基盤を固める狙いもあるとされる。そうした内政上の理由を考慮しても、今回の訪問は、日ロ関係の悪化を決定付ける。ロシア側は

九月の中国漁船衝突事件後に訪中した大統領は、胡锦涛主席と「主権や領土保全にかかわる核心的利益を支持し合う」との共同声明を発表した。北方四島を占拠するロシアと、尖閣諸島の領有権を主張する中国が連携した形だ。周辺国が対日圧力を強める中、日本も外交の在り方を再点検し、立て直す必要があるだろう。

対口外交の立て直し急務

北方領土訪問

メドベージェフ・ロシア大統領の北方領土訪問は、これまでの長い領土交渉で積み上げられた合意事項や信頼を根底から覆しかねないものであり、日本として到底容認できない。

「領土問題は存在しない」という旧ソ連時代の主張は、ゴルバチヨフ時代に明確に取り下げられ、1991年の日ソ共同声明で北方4島の領土問題の存在が初めて文書化された。歴代ロシア首脳はそれを前提に北方領土訪問を避けて

きた。が、今回「国内のこと」として訪問を断行したメドベージェフ大統領は、領土問題の存在をまた否定し始めたように映る。

菅直人首相は今年6月の日ロ首脳会談で、首脳レベルで領土問題を前進させることで一致したが、領土交渉を今後どう進めるのか、その基本方針や戦略についてまだ明確にしていない。対口外交の立て直しが急がれる。

メドベージェフ大統領の国後島訪問について、尖閣諸島問題で見られた菅政権の「弱腰外交」を見透かし、北方領土の実効支配を強化する。さらに「強い指導者」を印象づけ、次期大統領選を有利にするといった狙いが指摘される。

それは確かとしても、菅政権を軍に揺るがせる程度なのか、歴史認識を含めてロシアの対日政策がもっと深いところから変化していかないことが必要であろう。

ロシアは今年、日本が第2次大戦の降伏文書に調印した9月2日を事実上の対日戦勝記念日に制定し、中国と「大戦終結65周年の共同声明」に調印している。同声明は「歴史の歪曲を断固非難する」と断言しているが、日ソ中立条約を一方的に破棄して北方4島を「不法占拠」した歴史を歪曲しているのはロシア自身ではないのか。

中国に続いてロシアとの関係悪化が必至の上、米軍普天間基地問題も解決のめどが立たず、民主党政権は八方ふさがりである。外交の展望を開く上で、今月開催されるアジア太平洋経済協力会議(APEC)首脳会議が重要な場になるが、戦略的には普天間問題の決着を急ぎ、日米同盟を強固にする

怒り「北方四島返せ」

ロ大統領訪問 元島民ら抗議集会

ロシアのメドベージェフ大統領の北方領土訪問を受け、北海道根室市の元島民ら約200人が1日、横殴りの風雨が吹き付ける中、納沙布岬で抗議集会を開き、「いかなることも起きては北方四島は日本の固有の領土だ」とあいさつ。「きょう

【6面に本配】

歯舞群島出身で千島歯舞諸島居住者連盟根室支部長を務める河田弘登志さん(76)は「日本全国、世界のみならず北方領土は日本の領土だと発信したい」

根室市の長谷川俊輔市長も「強く憤りを感じている。日本政府は交渉戦略を再構築し、強力な外交を促進してほしい」と訴えた。

参加者は鉢巻きやたすきを身に付け、集会の最後に「島を返せ」とシュプレヒコールを上げた。

「故郷盗まれた」元根室島民 加賀・南出さん

南出さんの資産台帳には今も択捉島の約3万坪の土地が記載されているが「ただの紙切れじゃないか」と、あきらめの思いに駆られることもあるという。

石川県内の元島民も「故郷を盗まれた気持ちだ」と、悔しさをにじませた。

心算を忘れまいとかつて自分が住んでいた家などを描いたスケッチを見ながら、南出さんは「国同士の話で、どっしり話さないと話さなかつた」と話した。

択捉島の集落・別飛に住んでいた南出清次さん(74)は加賀市大聖寺上福田町に、「故郷に簡単に帰れずもどかしい思いをしている中、ロシア人が簡単に島に行くのを見ると悔しい」と涙しそうに話した。

スケッチを眺める南出さん＝加賀市大聖寺上福田町



納沙布岬で抗議集会を開き「島を返せ」とシュプレヒコールを上げる元島民ら = 1日、北海道根室市

森前県議が入院

一時心肺停止

10月31日午後6時ごろ、能美市下ノ江町、森前賢前石川県議(46)が自宅で倒れたとの119番通報があった。

森前県議は、救急車で白山市の公立松任石川中央病院に運ばれた。

関係者によると、森前県議は病院到着時は、心肺停止状態だったが、手当を受け一命を取り留めたもよう。面会謝絶の状態が続いているという。